

令和8年6月1日

令和8年 所信表明

新富町長 小 嶋 崇 嗣

本定例会の開会にあたり、3期目を迎えての所信を申し述べます。

3月19日に、3期目の町政運営をスタートいたしました。日々の町政運営に向き合う中で、改めて町政を預かる責任の重さを感じております。

私は町長就任以来、「子や孫たちが帰ってきたくなる町づくり」を掲げてまいりました。住民の皆さまにとって良いことなのか、将来の新富町のためになるのか。その視点を大切にしながら、一つひとつの課題に向き合い、必要な挑戦を続けてまいります。

振り返れば、この8年間は新富町の未来に向けた土台づくりの期間であったと考えています。子育て支援の充実、スポーツを核とした地方創生、農業や地域産業への投資、デジタル技術の活用、そして住民の皆さまの心に寄り添うさまざまな取組など、将来を見据えた施策を進めてまいりました。

もちろん、すべてが順調だったわけではありません。新型コロナウイルス感染症への対応や物価高騰対策など、その時々で大きな判断が求められる場面もありました。しかし、議会の皆さまをはじめ、多くの方々のお力添えをいただきながら、一歩ずつ前へ進むことができたと考えております。

こうして築いてきた土台の上に立ち、3期目は町民の皆さまに成果や変化をより実感していただく4年間にしていきたいと考えています。それが最も難しく、そして最も重要なことだと思っています。

住んでいて良かった。暮らしやすくなった。そうした実感につなげていくことが、3期目における私の責任であると考えています。

人口減少や少子高齢化、人材不足など、地方自治体を取り巻く課題はこれからも続きます。目の前にある課題を一つひとつ着実に解決していくこと、そして未来に向けた挑戦を続けていくこと。その両方が、これからの町政運営には求められていると考えています。

だからこそ、限られた財源や人材をどう活かすのか。何を優先し、何を未来に残していくのか。これまで以上に考え、判断し、行動していかなければなりません。

また、3期目において重要な課題の一つが、新田原基地におけるF-35Bの配備・運用に伴う騒音問題への対応です。現在、騒音区域の見直しが進められておりますが、その過程においてはさまざまな影響が生じることも想定されます。

私は、住民の皆さまの生活実態を踏まえながら、国と十分な協議を重ね、住民の皆さまにご理解いただける形となるよう取り組んでまいります。また、F-35B特有の騒音特性を踏まえた防音工事の推進についても重要な課題であり、生活環境の改善につながるよう、引き続き取り組んでまいります。

このような課題に着実に対応しながら、これまで築いてきた土台をさらに発展させ、その成果を町民の皆さまに実感していただける町政を進めてまいります。

その責任を果たすため、これからの４年間も全力で町政運営に取り組んでまいります。

議員各位並びに町民の皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げ、私の所信といたします。